

第5章 リーディングプロジェクト

北茨城市の環境将来像である「～小さな手 大きな手 つないで守る 北茨城市の豊かな自然～」を実現するためには、市内に居住する人、市内で働く人、市内を訪れる人が、北茨城市の環境のみならず、地球環境のことを考えて行動していくことが必要です。

リーディングプロジェクトとは、本計画を推進していく中で、全体を先導していく施策、すなわち、最も優先的に行うことで全体の取組を促進する施策として位置づけ、推進していくものです。

1 自然を楽しむまちづくり

1.1 目的

森林整備、清掃・除草などを強化し、自然の機能回復と良好な自然景観の維持を図ります。また、自然環境に関し、情報の一元化と啓発を強化することで、自然にふれあう機会の拡充を推進します。

1.2 プロジェクトの内容

- ・花園神社周辺の自然林や海岸林の整備の推進
- ・清掃活動や除草活動の推進
- ・自然環境に関する情報提供の強化と啓発活動の推進
- ・自然観察会、自然体験の推進

1.3 環境指標

環境指標		計画目標 (令和6年度)	計画初年度 (平成25年度)	現状 (令和2年度)
山林や海岸林等の整備面積	山林	878.9ha	378.9ha	725.7ha
	平地林等	10.8ha	0.8ha	7.3ha
	松林	50ha	50ha	50ha
現状：山林については、県や北茨城市森林組合など関係機関と連携し、間伐を実施している。平地林や里山林については、緑空間として利用されていない。海岸沿いなどの松林については、松くい虫被害予防散布を毎年約50ha実施している。 目標：山林は年間50haの間伐、平地林等は年間1haの整備、松林は年間50haについて松くい虫被害の予防に取り組む。				
「北茨城市環境美化運動の日」等の市内清掃参加者数		5,000人	約3,000人	1,916人 (令和元年度※)
現状：年1回実施している市内清掃参加者数。(※令和2年度は新型コロナウイルス感染対策の影響で中止) 目標：ポイ捨てごみを減少させるなど市内の美化を前提として、「北茨城市環境美化運動の日」以外にも市内清掃参加者数の増加を目指す。				
自然観察会及び自然体験イベント参加者数		250人	68人	41人※
※悪天候によるイベント中止などの影響。 現状：市主催又は市共催の自然観察会などが行われている。 目標：その他の自然観察会、自然体験イベント等を開催し、参加者数の増加を目指す。				

環境指標	計画目標 (令和6年度)	計画初年度 (平成25年度)	現状 (令和2年度)
水辺や生きものなど自然とのふれあいの場 に対する満足度*	58%	21.5%	20.4%
※市民アンケートによる満足度（現在の環境で「満足」+「やや満足」と回答した割合）を対象。 現状：自然とのふれあいの場に対する満足度が向上していない。 目標：自然観察会、自然体験等を推進しながら情報提供を行い、市域の豊かな自然を広く案内していく。			
まちなみ景観の美しさに対する満足度*	73%	32.9%	33.1%
※市民アンケートによる満足度（現在の環境で「満足」+「やや満足」と回答した割合）を対象。 現状：満足度はやや上昇しているが、環境の現状評価で4番目に満足度が低かった環境要素。 目標：景観に配慮した、利便性の高いまちづくりを推進する。			

2 安心・安全なまちづくり

2.1 目的

大気汚染や水質汚濁などの生活環境、私たちが安心・安全に生活をしていくために、きれいなまちづくりや不法投棄されない環境を目指し、さまざまな問題からの安全性の確保や景観保全を推進します。

2.2 プロジェクトの内容

- ・水環境・大気環境・騒音・振動・悪臭の監視・調査の継続
- ・河川のさらなる水質向上対策の推進

2.3 環境指標

環境指標	計画目標 (令和6年度)	計画初年度 (平成25年度)	現状 (令和2年度)
生活排水処理普及率	79.5%	58.9%	65.3%
現状：現状では計画初年度より6.4%増加している。 目標：北茨城市生活排水処理基本計画に掲げる目標値とし、処理普及率向上を目指す。			
河川水質環境基準達成率 (5河川7地点のBOD)	100%	100%	85.8%
現状：6地点で環境基準を達成している。 目標：環境基準値達成の継続を目指す。			
茨城県地球温暖化防止活動推進員の活動 支援数	10回	5回	7回
現状：7名が活動中（任期2年）。令和元年度は14回だったが、新型コロナウイルス感染対策の影響で減少した。 目標：地球温暖化防止に関する普及啓発活動を促進するため、市が積極的に推進員の活動を支援する。			
暮らしの中で節電を心がけている市民の 割合*	94%	64.6%	50.9%
※市民アンケートによる取組状況（「いつも行っている」と回答した割合）を対象。 現状：省エネの考え方は十分に浸透している。市民の関心が高い。 目標：省エネ行動の啓発や省エネ機器の普及活動を推進する。			
暮らしの中で節水を心がけている市民の 割合*	87%	47.0%	23.9%
※市民アンケートによる取組状況（「いつも行っている」と回答した割合）を対象。 現状：計画当初より関心が低くなっている。 目標：水資源の維持管理の成り立ちから、節水の重要さの啓発を推進する。			
緑のカーテンを作っている市民の割合*	62%	12.7%	3.5%
※市民アンケートによる取組状況（「いつも行っている」と回答した割合）を対象。 現状：学校の休校や企業の在宅勤務等新型コロナウイルス感染対策の影響でグリーンカーテンを作る機会が減少してしまったため極端に現状が低い。 目標：継続的に周知を行い、取組の拡大を目指す。			
まちの清潔さに対する満足度*	69%	36.5%	36.9%
※市民アンケートによる満足度（現在の環境で「満足」+「やや満足」と回答した割合）を対象。 現状：継続的な清掃活動を行いながら啓発を行っているが、満足度に変化は見られない。 目標：清掃活動や除草作業を推進する。			

3 ゼロカーボンに向けたまちづくり

3.1 目的

ごみの発生抑制と有効利用による排出抑制を推進し、循環型社会づくりを図ります。

さらに、地球温暖化対策及び気候変動適応を推進し、地域特性を活かした再生可能エネルギーの普及や促進、CO₂の削減を進め、ゼロカーボンシティ構築を目指します。

3.2 プロジェクトの内容

- ・ごみの分別の徹底
- ・廃食用油の回収及び再資源化（バイオディーゼル燃料など）
- ・地球温暖化対策及び気候変動適応の推進
- ・公共施設における再生可能エネルギー導入や効率的なエネルギーの利用促進
- ・民間による再生可能エネルギーや環境に配慮した設備等の導入への協力
- ・CO₂排出量の見える化活用の推進（環境家計簿、CO₂排出量チェックツール、環境ラベル）

3.3 環境指標

環境指標	計画目標 (令和6年度)	計画初年度 (平成25年度)	現状 (令和2年度)
一人1日当たりのごみの排出量 (一般廃棄物)	962g	1,022g	1,012g
一人1日当たりのごみの排出量 (g) = {総ごみ排出量 (g) / 北茨城市ごみ処理区域内人口 (人)} / 365 (日) 現状：北茨城市一般廃棄物処理基本計画の目標値 973.8g (令和2年度) を下回っている。 目標：北茨城市一般廃棄物処理基本計画に掲げる目標値 (令和6年度) とし、排出量の削減を目指す。			
リサイクル率 (一般廃棄物)	14.5%	13.0%	10.8%
リサイクル率 (%) = 資源物量 (t) / ごみ総搬出量 (t) × 100 現状：計画当初の県平均は、21.3% (平成24年度)。 北茨城市一般廃棄物処理基本計画の目標値 13.2% (令和2年度) を下回っている。 目標：北茨城市一般廃棄物処理基本計画に掲げる目標値 (令和6年度) とし、リサイクル率の向上を目指す。			
生ごみ処理容器等導入件数 (累計)	1,366 台	1,166 台	1,216 台
現状：平成4年度から開始した処理容器及び処理機の購入補助により導入された件数。現状は計画初年度より50台増加している。 目標：年間生ごみ処理容器等20台の導入を目指す。			
廃食用油の回収量	2,000kg	1,563kg	1,950kg
現状：学校給食センターでは民間回収業者に引き渡している。一般家庭からの回収は行っていない。 目標：民間からの啓発を進め、事業所及び家庭からの回収量の増加を目指す。			

環境指標	計画目標 (令和6年度)	計画初年度 (平成25年度)	現状 (令和2年度)
気候変動や再生可能エネルギーに関する意見交換の開設数（累計）	2回	—	—
<p>現状：地球温暖化や気候変動対策、カーボンニュートラルや再生可能エネルギーを推進するための意見交換の場を設けることを検討。</p> <p>目標：洪水や高波、土砂崩れなどの災害に強いまちづくりに関する対策や、自然と調和した再生可能エネルギーの普及を目指す。（市民夏まつりや科学の祭典などのイベントブースでの普及啓発活動含む）</p>			
公共施設における再生可能エネルギー導入件数（累計）	7件	3件	5件
<p>現状：太陽光発電システムを学校等5施設に設置している。</p> <p>目標：国の動向等を見極めながら、導入について検討を進める。</p>			
住宅用環境配慮型設備導入件数（累計）	550件	20件	340件
<p>現状：平成25年度から住宅用太陽光発電システム設置費補助事業を開始している。</p> <p>目標：年間60件の設置費補助に努め、導入件数の増加を目指す。</p>			
温室効果ガス排出量（市全体）	549 千t-CO ₂	785 千t-CO ₂	716 千t-CO ₂
<p>現状：ゼロカーボンシティ宣言により、基準年・目標値ともに変更。本市においての温室効果ガスは減少している。</p> <p>目標：国の目標値に合わせ、令和12年度までに46%削減（平成25年度比）を目指す。</p>			
温室効果ガス排出量（市の事務事業）	13,109 t-CO ₂	14,945.9 t-CO ₂	14,603 t-CO ₂
<p>現状：北茨城市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）では、平成17年度を基準年度とし、毎年度、前年度比1%削減を目標としている。</p> <p>目標：北茨城市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の見直しを行い、新たな削減目標を掲げ取り組む。</p>			
買い物の際、マイバッグを持参している市民の割合*	93%	79.0%	80.0%
<p>※市民アンケートによる取組状況（「いつも行っている」と回答した割合）を対象。</p> <p>現状：計画当初より啓発活動を行ってきた。市域には十分に浸透している。</p> <p>目標：継続的な啓発活動を行っていく。</p>			
生ごみの堆肥化などでごみの減量化に努めている市民の割合*	75%	22.9%	6.2%
<p>※市民アンケートによる取組状況（「いつも行っている」と回答した割合）を対象。</p> <p>現状：市民の関心度が減少している。</p> <p>目標：ごみの減量化の効果について、啓発活動を推進する。</p>			
エコドライブ（省エネ運転）をしている市民の割合*	81%	41.9%	43.7%
<p>※市民アンケートによる取組状況（「いつも行っている」と回答した割合）を対象。</p> <p>現状：HV、EVなどの普及に伴い関心が高まっている。</p> <p>目標：エコドライブについて、普及啓発を継続する。</p>			
車両使用時の環境負荷低減を行っている事業者の割合*	76%	28.1%	30.8%
<p>※事業者アンケートによる取組状況（「現在実施している」と回答した割合）を対象。ただし、エコドライブだけでなく、エコカーの導入、マイカー通勤の自粛も含まれているため、今後、アンケート調査の際はエコドライブに限っての取組とする。</p> <p>現状：乗用だけでなく輸送車両へのHVの導入が進んでいる。同時に関心が高まっている。</p> <p>目標：ゼロカーボンを目指して、エコカー導入やエコドライブの運用を促す。</p>			

4 みんなが主役の環境活動

4.1 目的

地域、学校、企業、各種団体などで行われている環境保全に向けた小さな取組から大きな取組まで、誰もが「伝える立場」と「知る立場」で参加できる、みんなが主役の環境イベントを開催し、環境意識の向上と環境活動の促進を図ります。

4.2 プロジェクトの内容

- ・地域、学校、企業、各種団体などで行われている環境保全に向けた取組の発表
- ・環境白書の公表、環境に関する市の事業の紹介
- ・市の自然・歴史・文化の紹介
- ・市民団体や茨城県地球温暖化防止活動推進員による環境に関する啓発
- ・エコカーや太陽光発電システムなど環境性能の高い商品の紹介
- ・地産地消グルメ（地元の農水産物等）の販売
- ・間伐材を利用した工作教室 など

4.3 環境指標

環境指標	計画目標 (令和6年度)	計画初年度 (平成25年度)	現状 (令和2年度)
環境イベントや教育への参加者数	2,000人	—	300人 (令和元年度※)
現状：市民夏まつりなどで、市民や事業者の環境意識の向上と環境活動を促進している。 (※令和2年度は新型コロナウイルス感染対策の影響で中止) 目標：市が主催するイベントで環境ブースを開設し、さらなる来場者数の増加を目指す。			
環境保全取組事例公表件数（累積）	65件	—	54件
現状：市民夏まつりをはじめ、市の広報紙、公共施設等で公表しているが、近年は新型コロナウイルス感染対策の影響でイベントの開催が減少している。 目標：市民や市民団体、学校、事業所等で実施している取組を募集し、市民夏まつりをはじめ、市の広報紙、公共施設等で公表する件数について毎年5件の増加を目指す。			
環境保全に対する市民の意識の高さに対する満足度*	44%	18.1%	17.5%
※市民アンケートによる満足度（「満足」+「やや満足」と回答した割合）を対象。 現状：市民は「市民の環境保全への意識の高さ」はまだ高いとは言えないと考えている。 目標：ゼロカーボンに向けて市民の参加や参画を増やし意識の向上を実現する。			
環境について家族や友達と話し合っている割合*	36%	13.9%	29.5%
※小中学生アンケートによる取組状況（「している」と回答した割合）を対象。 現状：普段の生活の中で環境に関する取組や話し合いをする機会が少ない。 目標：親子で参加できる環境イベントや環境学習会を増やし、話題を提供する。			
地域の環境保全活動への支援・参加をしている事業者の割合*	80%	42.1%	38.5%
※事業者アンケートによる取組状況（「現在実施している」と回答した割合）を対象。 現状：計画当初よりあまり変化がない。 目標：「今後はしてみたい」と回答した割合（49.0%）が実施に移行することを目指す。			